

理科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

TIMSS 2019の結果

▲「理科の勉強は楽しい」と答えた児童生徒の割合が国際平均を11%下回るをはじめ、「理科を勉強すると、日常生活に役立つ」「理科を使うことが含まれる職業に就きたい」も国際平均を下回っている。

研究員による実践の成果と課題

- ICT 機器を活用して、実験結果を共有したり、分析・解釈したりすることで、考えを導き出すことができた。
- ▲指導方法や指導形態に指導者の目が向き、その単元や領域で育成すべき資質・能力、教材に対する理解を深める必要がある。

子どもの目線に立つ2021

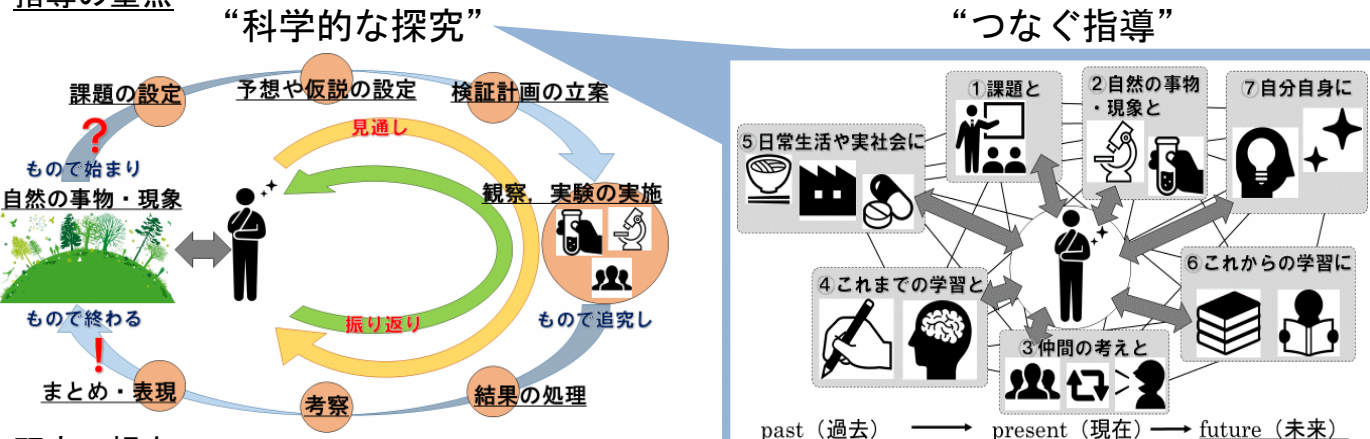
○平成30年度調査では、理科の勉強が「好き」「大切」「将来役に立つ」と回答する生徒の割合が全国平均を上回っている。
→今後、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めるために、日常生活や社会との関連を図ることが求められている。

▲令和3年度調査では、小・中学校の国語、数学(算数)について、「好き」「将来、社会に出たときに役に立つ」と回答する生徒の割合が、全国平均を下回っているものが多い。

研究主題

「理科の勉強が好き・楽しい」と実感できる理科指導
～ “科学的な探究” と “つなぐ指導” を通して～

指導の重点



研究の視点

- <教育課程>
 - ・育成する資質・能力を捉え、学習内容の系統性・発展性を明らかにした指導計画の作成
- <観察、実験>
 - ・課題に正対した考察をするために必要となる確かな事実が得られる教材・教具の工夫
- <学習・評価>
 - ・生徒が、自ら学習課題を設定することができる導入の指導
 - ・結果を図やグラフ・表などに整理して考察することができる指導
 - ・日常生活や社会への適用を意図した終末の指導
- <環境教育>
 - ・地域の人的・物的資源を活用するなどして、自然環境の保全に寄与する態度を育てる指導